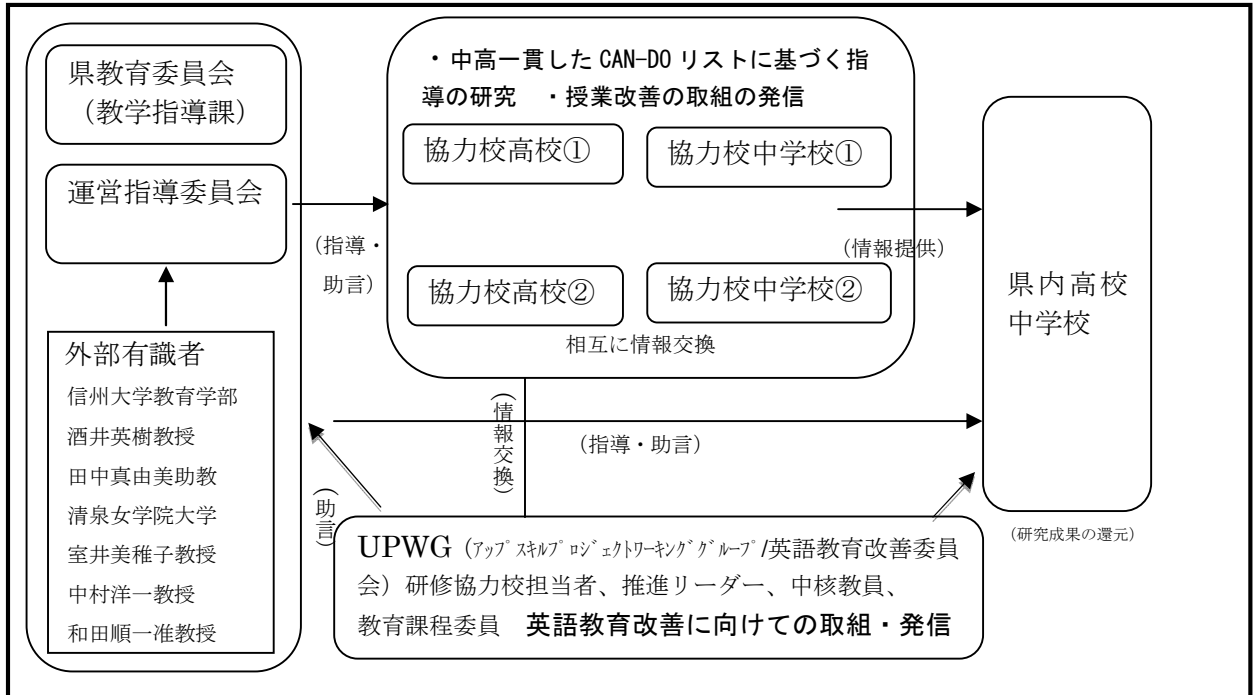


長野県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

域内の全中学校及び全高等学校において次の①～⑧の指標に目標を設定し、その達成のために以下の手立てを行う。

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

中学：H26 28.2%→H27 28.0% 目標：H28 32%，H29 35%
 高校：H26 73.6%→H27 72.1% 目標：H28 81%，H29 85%

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

中学：H26 33.2%→H27 33.7% 目標：H28 37%，H29 40%
 高校：H26 35.0%→H27 35.0% 目標：H28 47%，H29 50%

③「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

学習到達目標の整備状況

【中学校】

設定	現状 H26	9%→H27	9%	目標：H28	64%，H29	100%
公表	現状 H26	0%→H27	3.2%	目標：H28	50%，H29	100%
達成状況の把握	現状 H26	3.7%→H27	10.2%	目標：H28	40%，H29	80%

【高校】

設定	現状 H26	28.5%→H27	84.8%	目標：H28	100%，H29	100%
公表	現状 H26	3.8%→H27	13.6%	目標：H28	60%，H29	100%
達成状況の把握	現状 H26	4.6%→H27	26.4%	目標：H28	40%，H29	80%

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【中学校】

半分以上言語活動を行っている。

現状：H27 63.1% 目標：H28 65%, H29 70%

【高校】

半分以上言語活動を行っている。

現状：H27 31.0% 目標：H28 35%, H29 40%

⑤パフォーマンステストの実施状況

【中学校】（1学校1学年あたりの回数）

スピーキングテスト（回）H27 2.7 目標 H28 2.8, H29 3.0

ライティングテスト（回）H27 2.6 目標 H28 2.5, H29 3.0

【高校】（コミュニケーション英語Ⅰで実施している学校の割合）

パフォーマンステスト H27 36.0% 目標 H28 45% H29 50%

スピーキングテスト（回）H27 1.3 目標 H28 2.0, H29 3.0

ライティングテスト（回）H27 0.8 目標 H28 2.0, H29 3.0

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

【中学校】

現状 H27 57.4% 目標:H28 80.0%, H29 100%

【高校】

現状 H27 31.1% 目標:H28 70.0%, H29 100%

⑦域内の全小学校における相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

【小学校】

現状:H27 0.7% 目標:H28 1.5%, H29 2.0%

⑧域内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

【小・中・高校】

各校種 年間8～10回 研修受講者の割合は毎年、英語科担当教員の60%を目標。

目標達成のための手立て

上記の目標の達成のため、「長野県英語教育改善に向けたPDCAサイクル」（別表）を用い各項目の改善推進を図る。個別の手立てについては、以下の通り。

■①②について目標達成のための手立て：

◆UPWG（英語教育改善委員会）中心に県内各地区で各種研修会を行い、指導力を向上させ生徒の英語力の伸長を図る。

【中学校】 ・教育課程研究協議会において、英語教員の英語力、授業指導力向上のための研修を行う。

【高 校】 ・高校英語指導力アップスキルプロジェクト研修会を開催する。

【共 通】 ・英語教員外部試験助成制度を周知する。

・中学校・高校合同のアップスキルプロジェクト研修会を開催し、中高連携を進め生徒の英語力の伸張を図る。

・アップスキルプロジェクト研修会は、講演会や授業研究会等も英語で討論を行う。

・生徒の英語運用能力を向上させるため、CAN-DO リスト形式の到達目標を意識した授業作りを進め、生徒自身が学習成果を確認できる仕組み作りを進める。

・生徒の英語力を測る、各種検定試験についても研修会で取り扱う。

■③について目標達成のための手立て：

◆県モデルの中学校・高校 CAN-DO リストを用いて、研修協力校やワーキンググループにおいて指導モデルを研究し、県内の中学校・高等学校に発信する。

◆教育課程研究協議会で CAN-DO リストの効果的な活用方法を考え、達成状況の把握につながる研修場面を設ける。

- 【中学校】 ・教育課程研究協議会等において、H26 年度に県独自に作成した CAN-DO リストの県モデル及び作成の手引きリーフレット等を用いて、各校の学習到達目標の整備に向けた研修を行う。
- ・英語科教員を対象に CAN-DO リストを活用した授業改善についての研修を行う。
- 【高校】 ・CAN-DO リストの形式の学習到達目標を授業改善に活かすための研修を行う。
- 教育課程研究協議会において、各校の CAN-DO リストの形式での学習到達目標を年間計画に落としこむことや達成状況の把握につなげるための実習を行う。
- ・観点別評価を行うため、成績集計の方法などの研究を行う。
- ・ワーキンググループにおいて、引き続きパフォーマンステストの実施方法やルーブリック等の作成方法について研究し、教育課程研究協議会やアップスキル研修会で共有する。

■④～⑥について目標達成のための手立て：

◆UPWG（英語教育改善委員会）を中心に、県内各地区で公開授業やパフォーマンステストのワークショップなどの研修会を行い、授業改善の意識を高め、指導力の向上を図る。

- 【中学校】 ・教育課程研究協議会等での公開授業において、CAN-DO リスト活用した授業を英語で行うための方法、生徒の言語活動の充実に向けた授業づくりや評価の方法についての研究協議を行い、情報を共有する。
- 【高校】 ・研修協力校の授業、教員の英語使用の割合が高い授業、生徒の言語活動の割合が高い授業をモデルとしたアップスキルプロジェクト研修会で公開する。
- ・UPWG において、発信型英語運用能力の養成が出来るような活動の研究や、評価方法について研究し県内への周知をする。
- 【共通】 ・英語教育推進リーダーによる伝達研修を行う。
- ・モデルとなる授業等のビデオライブラリーシステムの運用研究。
- ・中高連携や効果的なパフォーマンステストの作成・実施方法をテーマにした中高合同のアップスキル研修会を実施する。

■⑦⑧について目標達成のための手立て：

- 【小学校】 ・担当教諭に、英語教育や外部検定試験について情報を提供し、校内全体の教員に、英語教育に対する意識の涵養や啓蒙を行う。
- 【共通】 ・英語教育推進リーダーによる伝達研修を継続し、今後約 4 年間で県内すべての教員が受講できるように計画を進める。
- ・小学校では今後 4 年間にわたって各校 1 名の担当教員が参加し、それぞれの学校において校内研修を実施する。

P D C A サイクルを用いたプランの検証について

上記の手立てを実行した後、年末に行う英語教育実施状況調査をもとに、年度内の取組実践についての状況をまとめ、運営指導委員会の指導を受け、教育委員会として次年度への課題を明確化し、次年度の計画に盛り込む。

(3) 研修の体系と内容の具体

1 研修の体系

◆UPWG（アップスキルプロジェクトワーキンググループ）での授業改善への実践的な研究

- ・英語教育推進リーダーや、研修協力校、地域拠点校、中核教員、教育課程研究委員などから委員を選出し、研究を通して連携し英語教育改善に取り組む。
- ・推進リーダーによる伝達講習会の運営。
- ・報告会やニュースレター等で全英語担当教員に研究成果の報告し、英語教育改善プランの普及を図る。

◆運営指導委員会

- ・外部有識者による研修協力校やワーキンググループの取組に対する指導助言。
- ・アップスキル研修会や外国語指導助手等指導力向上研修会（Skills Development Conference）等、各種研修会における指導。

【中学校】

- ①教育課程研究協議会等（県内12郡市にて）
 - ・県独自に作成したCAN-DOリスト及び作成の手引きのリーフレット等を用いて、各校の学習到達目標の設定を進める。
- ②英語教育推進リーダーによる伝達研修
 - ・研修の成果を各地域（県内4教育事務所単位）で伝達
- ③英語指導力アップスキルプロジェクトへの参加
 - ・中学と高校で合同で実施する研修会で、中高の連携を深める。
- ④研修協力校2校
 - ・CAN-DOリストの形式の学習到達目標に基づく日常の授業実践と評価についての研究。
 - ・公開授業を実施し、授業研究会を通じた指導力の向上。
 - ・授業改善に活かすための実践事例を蓄積し、その取組の成果を周知する。
 - ・中高連携の在り方を探り、2拠点地域において異なるテーマで研修を推進。その成果を周知する。

【高校】

- ①英語指導力アップスキルプロジェクトへの参加
 - ・授業改善、教員の英語力向上、学習到達目標の実践的な運用・観点別評価の方法やパフォーマンステストの研修機会を設ける。
- ②英語教育推進リーダーの選定
 - ・研修の成果を伝達。2日間の伝達講習会の実施。
- ③教育課程委員会
 - ・CAN-DOリストの形式による学習到達目標の設定から单元ごと、授業ごとの目標設定とその評価方法について研究し成果を発表する。
 - ・県内4地区の教育課程研究協議会の準備運営を担当する。特に県内高等学校での取組を調査し、喫緊の課題を見つけ、今後の研修テーマを探る。
- ④研修協力校2校
 - ・CAN-DOリストの形式の学習到達目標に基づく日常の授業実践と評価についての研究。
 - ・公開授業を実施し、授業研究会を通じた指導力の向上。
 - ・授業改善に活かすための実践事例を蓄積し、その取組の成果を周知する。
 - ・中高連携の在り方を探り、2拠点地域において異なるテーマで研修を推進。その成果を周知する。

2 具体的な取組内容

【小中学校】

①中学校における CAN-DO リストによる学習到達目標の設定推進

- ・昨年度同様、教育課程研究協議会において、CAN-DO リストの県モデル及び作成の手引きリーフレットについて紹介し、各中学校教科会における CAN-DO リストによる学習到達目標の設定を促進する。
- ・研修協力校における調査研究協力及び検証する取組を行う。
- ・中高連携の立場から、高校の英語指導につながる CAN-DO リストの見直し研究を行う。

②教育課程研究協議会における研修

- ・公開授業をもとに研究協議を行う。
- ・英語教育推進リーダー及び指導主事が、国の中央研修の内容について伝達する。
- ・「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料」「長野県小学校外国語活動DVD Hello, teachers!」等DVDを活用した演習を行う。

③英語教育推進リーダーの選定と研修の実施

- ・中央研修の対象となる英語教育推進リーダー（小学校4名、中学校4名）を選定し、県内4地域（北信、東信、南信、中信）で伝達研修を行う。

④その他

- ・英語担当教員対象の外部検定試験の割引制度について周知し、利用を促す。
- ・「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料」などを研修会などで積極的に利用する。

【高校】

①英語指導力アップスキルプロジェクト

- ・アップスキルワーキンググループを充実させ、県教育委員会と共に研修会を運営する。
- ・外部専門機関より講師を招き、授業改善について研修を行う。
- ・すぐれた授業を多く公開し、授業改善について研修を行う。
- ・教員の英語力向上を目的に、教員のための English Camp などの研修会を行う。
- ・外部専門機関から助言を得ながら、学習到達目標の具体的な運用、特に観点別評価方法の研究を進める。
- ・中学校担当教諭とともに、一貫した到達目標、評価方法について研究する。
- ・新しい大学入試について研究し、周知を図る。

②英語教育推進リーダーの選定と研修の実施

- ・中央研修の対象となる英語教育推進リーダーを含め、県内4地域に英語授業改善の中核となる教員を選定し、研修と授業公開を行う。
- ・英語教育推進リーダーによる講習を行う。
- ・紀要によって研究内容の周知を図る。

③教育課程委員会

- ・県教育課程研究協議会を準備企画する。特に準備の段階から、県内高等学校での取組を調査し、喫緊の課題を見つけ、今後の研修テーマを探る。
- ・ワーキンググループの中心として、各校で取り入れやすい評価のフォーマットを研究する。

④その他

- ・英語担当教員対象の外部検定試験の割引制度について周知し、利用を促す。
- ・紀要を作成して研究成果を浸透させる。

3 達成状況の確認と、その後の対応について

◆運営指導委員会による指導と改善プランの改訂

- ・PDC A サイクルを用いたプランの実行を遂行するため当該年度の研修内容について、年度末の運営指導委員会に指導助言を求め、その指導をもとに県教育委員会として各項目の目標達成状況等を精査し、次年度に向けた改善策を検討し、改善プランの改訂・充実をはかる。

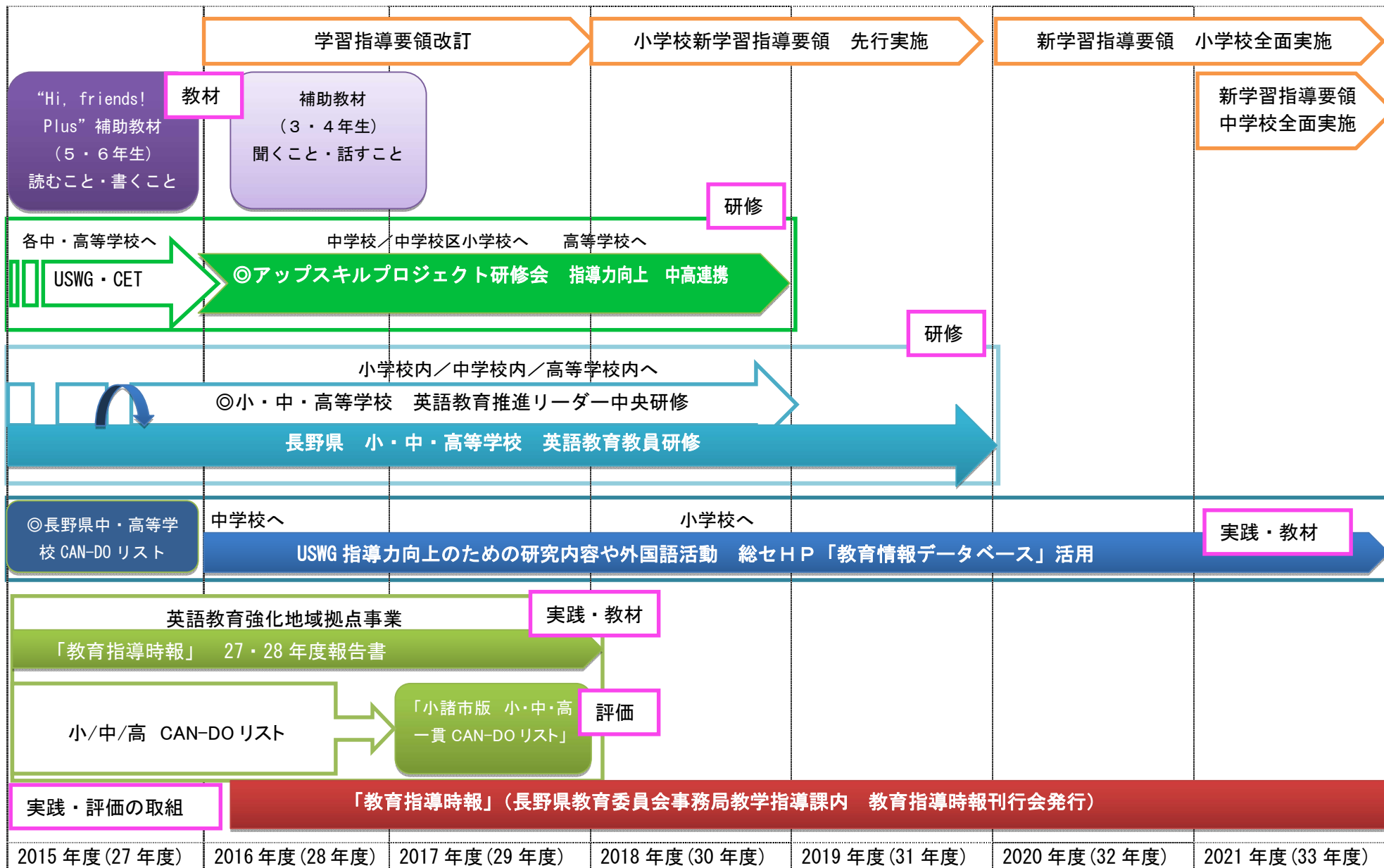
(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○小中高推進リーダー教員選定	
5月	○第1回運営指導委員会 開催 （「長野県英語教育改善に向けたPDCAサイクル」の計画・実行への指導助言） ○目標達成のための域内での課題共有 ○第1回アップスキル研修会（パフォーマンステストについての講演会）	運営指導委員会 指導助言
6月	○第2回アップスキル研修会（推進リーダーによる公開授業） ○英語教育推進リーダー研修会（義務・高校）	指導助言
7月	○第3回アップスキル研修会（推進リーダーによる公開授業） ○英語教育推進リーダー研修会（義務・高校）	指導助言
8月	○第4回アップスキル研修会（大学教員による講演会） ○推進リーダーによる英語教員指導力研修（小学校・中学校・高等学校）	講演会
9月	○県内教育課程研究協議会（義務・高校） （全域全校種において改善プランのPDCAサイクルを踏まえ直面する課題について討議研修を行う。） ○第5回アップスキル研修会（研修協力校授業公開、外部検定試験研修会）	研修会指導
10月	○第6回アップスキル研修会（地域拠点事業公開授業） ○アップスキル海外集中研修会	指導助言
11月	○第7回アップスキル研修会（研修協力校事業公開授業） ○Skills Development Conference	指導助言 基調講演
12月	○第8回アップスキル研修会（教員対象英語キャンプ）	
1月	○第9回アップスキル研修会（SGHでの取組と講演会）	講演会
2月	○第10回アップスキル研修会（合同報告会） ○第2回運営指導委員会 開催 （年度内の取組実践について検証を行い、今後の課題を明確化させる。） ○運営指導委員会の指導を受け、次年度の英語教育改善プランにおける具体的な行動計画決定	運営指導委員会
3月	○ALT Spring Training Seminar（外国語指導助手研修会）	
【その他の取組】 ○アップスキルワーキンググループ 作業部会（随時） ○県教育委員会発行の教育誌『教育指導時報』の紙面で改善への取組を周知（随時）		

長野県英語教育改善プラン計画 (イメージ)

《2016~》

◎：外部専門機関と連携した英指導力向上事業



別表

長野県英語教育改善に向けたPDCAサイクル

PLAN 英語教育改善プラン

【生徒】

- ・ 4技能のバランスの良い授業
- ・ 目標とされる英語力を養成

【教員】「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」

- ・ 研修機会の充実
 - 「長野県英語教員研修」「中央研修への派遣」
 - 「アップスキルプロジェクト英語教員研修会」
 - 「教育課程研究協議会」
 - 「英語検定試験補助制度の周知・受験奨励」
- ・ 授業改善研究
 - 「研修協力校での実践研究周知」
 - 「アップスキルWG実践研究（授業案・評価方法等）」
 - 「学習到達目標の達成に向けた授業改善」

DO 実践

【学校】

- ・ CAN-DO リスト形式による学習到達目標の達成を目指す、シラバス編成
- ・ 各校での授業改善を目指した授業実践
- ・ パフォーマンステストの実践
- ・ 英語担当教員の外部検定試験受験
- ・ 英語教員の各種研修参加
- ・ 校内外の授業研究

【教育委員会】

- ・ 各種研修会企画運営
- ・ 各種周知・啓蒙活動
- ・ 各施策についての学校への周知・指導

ACT 改善・処置

【教育委員会】

- ・ 運営指導委員会で指導を下に、改善点を整理
- ・ 改善点に対する対応策検討並びに各校への周知

【生徒】

- ・ 4技能のバランスのとれた授業での英語力の涵養（特に「話す」「書く」の発信力の育成）

【教員】

- ・ 生徒の英語力向上につながる具体的な授業改善
- ・ 授業を実際のコミュニケーションの場面とする工夫

CHECK 評価・検証

【学校】

- ・ 生徒の英語力について4技能の力を把握
- ・ CAN-DO リスト、学習到達目標の見直し・再検討
- ・ シラバスの見直し・再検討

【教育委員会】

- ・ 目標を達成した生徒の数を把握
- ・ 英語教員の英語力の取得状況の把握
- ・ 各種研究・研修の状況を把握・評価

【外部専門機関・運営指導委員会】

- ・ 県の各種施策についての評価・助言

